

令和7年度学校評価報告書（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程学習指導	①自ら課題を設定し、その解決に向けて主体的に探究することができる生徒の育成を図る。 ②グローバル化が進む社会で広い視野を持って協働して課題を解決できる生徒の育成を図る。	①バランスの取れた学力の育成と主体的な探究活動の実現、高い進路希望や多様な進路を実現する教育課程となっているかどうかを検証する。ICT利活用の環境を一層充実させ、学校DXを推進する。 ②国際社会でリーダーとして活躍できる人材の育成を目指し、学校として生徒に身につけさせたい能力を定め、推進に向けて組織的、継続的な授業改善を図る。	①教育課程の検証は教科意見や科目選択状況、進路希望調査、進学実績などをもとに、編成は適切か、目標達成は可能かの視点で行う。ICTが適切に活用できるよう、相談体制と管理体制を整備する。 ②現状を把握し、身につけたい能力を定める。その育成に向けて教科で授業について協議する。そのための授業改善は校内研修、授業実践、研究協議、授業評価などのサイクルで組織的、継続的に行う。	①教育課程が教科目標や生徒の進路希望を実現するものになっているか。ICTの利活用に向けて環境整備や研修は行われたか。端末破損や紛失などに適切に対応できる管理体制は整っていたか。 ②身につけさせたい能力は定まつたか。それに向けた授業に関する協議は各教科で行われたか。授業改善は組織的・継続的になされていったか。
		①豊かな人間性や主体性、指導的役割が果たせる人格の育成を図る。 ②生徒一人ひとりの適切な理解に基づく生徒支援体制と教育・健康相談の充実を図る。	①生徒会行事が生徒主体の活動となるよう生徒の運営をしっかりとサポートし、リーダーシップを身につけ、今後社会で活躍できる資質や能力が備わるよう支援に努める。行事や活動についての広報に努める。 ②生徒が安心して学校生活を送れるよう、教育相談担当を中心に、校内の連携を強化するなど校内体制を整備する。またSC、SSWや地域とも連携して生徒のサポートにあたる。	①行事のテーマやルールづくりに主体的に関与させ、それに沿って企画、運営をさせる。安全、安心の徹底や防犯上の問題を意識させる。行事後はアンケートなどで課題を整理させ、次年度の改善を図らせる。行事等の様子はホームページに積極的にあげていく。 ②教育相談コーディネーターを中心に行き交際を適切、迅速に共有する。SC、SSWと協力してかながわ子どもサポートドックの取組を推進する。必要に応じて関係機関と連携し、円滑に調整を行う。	①生徒会行事の企画、運営にあたって実行委員会などがきちんと開催されていたか。企画やルールをつくる上で前年度の反省や課題をしっかりと踏まえたものになっているか。行事等の最新情報がホームページで定期的に更新されていたか。 ②支援が必要な生徒情報について校内で適切に共有することができたか。かながわ子どもサポートドックの取組などを通じてSC、SSWの活用は進んだか。関係機関との連携を取った場合、調整は円滑に行われたか。
2	生徒指導・支援	①キャリア観の育成を通じて生徒自らが進路を開拓・選択する力を培うとともに、第一希望の実現に向けた指導、支援を充実させる。	①将来を見据えたキャリア観の育成と3年間を見通した進路指導計画に則って、組織的な進路指導体制を整える。生徒が自ら希望する進路を見出し、その希望する進路が実現するよう様々な手立てを実践する。	①1年生で行うキャリア教育に関するイベントの内容見直しや実施時期の整理などを通じてキャリア教育計画を再構築する。受験間近の3年生に対する不安などに対応する。小論文対策などをプラスアップさせ、総合型入試への生徒のニーズに応える。	①キャリア教育関連イベントの見直しは進んだか。3年生の面接や総合型入試への対応は進んだか。卒業時に行う進路指導の満足度や必要な力が身に付いたかを問う調査で、肯定的な回答の比率が85%を超えたか。
		①PTAや同窓会、地域との連携事業を通じて、生徒の社会参画意識を向上させ、地域とともにある学校づくりを推進する。	①主役である生徒達の成長や資質向上を目指すなか、PTA、同窓会、地域との望ましい連携を追求し、共存、共栄が図れるよう細やかな調整を心掛ける。地域貢献活動では公共機関との連携の比重を高めていく。	①地域との連携では地域貢献活動の連携先に近隣小・中学校などの公共機関を開拓する。PTAとの連携では会費購入のAEDを活用した講習会やSNSでの情報発信などの活動を支援する。またPTAや同窓会と連携を図り、125周年記念事業を協力して実施する。連携を進めるにあたっては、報告、連絡、相談を的確に行って総合理解を深める。	①地域連携活動の連携先として小・中学校などの公共機関を新たに開拓できたか。PTAのAED講習会やSNSでの情報発信活動を支援できたか。125周年記念事業をPTA、同窓会と協力して実施できたか。連携を進めるにあたって、報告、連絡、相談を的確に行うことができたか。
3	進路指導・支援	①大規模災害に備え、職員・生徒・地域が協力して行動できる体制を整える。 ②生徒と向き合う時間を確保するため、教員の働き方改革を推進する。	①大規模災害時の施設運用を想定するとともに、生徒にはいざという時に適切な行動がとれるよう訓練を工夫し、意識の向上を図る。 ②業務分担の偏りや長時間労働の是正に向けて職員が協力して取り組み、持続可能な指導、運営の体制づくりを進める。	①避難所開設に備えて適切な施設運用を想定する。生徒が危機意識を持てるよう訓練を工夫し、当事者として何ができるかをグループワーク等で意識づける。 ②職員は協力して業務の均分化に努め、誰もが容易に遂行できる業務を目指してマニュアル化や見える化、Teams活用を進め。管理職は勤務過多の職員を把握し、是正を働きかける。	①大規模災害を想定して、地域住民等に配慮した施設運用は想定できたか。実践的な訓練は行われたか。生徒が災害に対して当事者意識を持つことができたか。 ②業務の均分化は進んだか。マニュアル化や見える化、Teams活用が進み、業務の遂行は容易になったか。勤務過多の職員へは適切な対応がとられたか。